

グ)6.8%、「海外プロサッカー(欧州、南米など)」6.6%、「プロテニス」6.6%が直接観戦希望率では上位に入った。

今後の直接スポーツ観戦希望率が高い上位10種目を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出した。直接観戦希望率が最も高い「プロ野球(NPB)」は、継続観戦希望(リピーター)率10.2%、新規観戦希望率16.1%と、どちらの割合も他の観戦種目と比べて高い。直接観戦希望率2位の「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」「フィギュアスケート」は、継続観戦希望(リピーター)率が0.5%および0.4%に対して新規観戦希望率が15.5%および15.6%であり、新規観戦希望者の割合が高い。

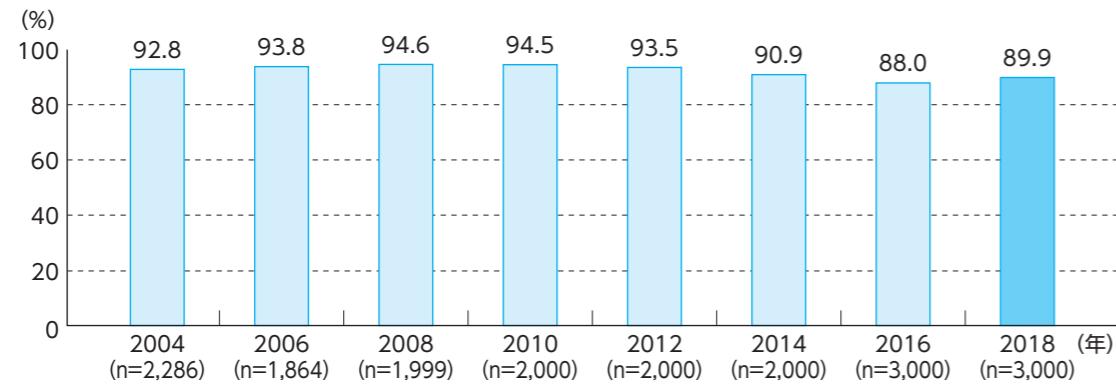
### 4-3 テレビによるスポーツ観戦率

過去1年間のテレビによるスポーツ観戦状況の推移を図4-4に示した。2018年のテレビスポーツ観戦率は、全体の89.9%であった。テレビスポーツ観戦率は、最も高かった2008年から減少が続き、2016年は調査項目に追加して以降最も低い88.0%であったが、2018年は1.9ポイント増加した。今回の結果から、過去1年間のわが国におけるテレビスポーツ観戦人口は、9,530万人と推計された。

図4-5は、テレビスポーツ観戦率を性別に示している。男性は91.5%、女性は88.3%であり、男性が女性を3.2ポイント上回る。

図4-6に、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のテレビスポーツ観戦率を示した。年代別にみると、18・19歳84.5%、20歳代83.2%、30歳代84.8%と、30歳代までのテレビ観戦率は8割台である。40歳代以上では、40歳代92.3%、50歳代90.2%、60歳代94.0%、70歳以上93.5%と9割台であった。テレビ観戦率は年代によって差があり、特に30歳代以下のテレビ観戦率が低い。

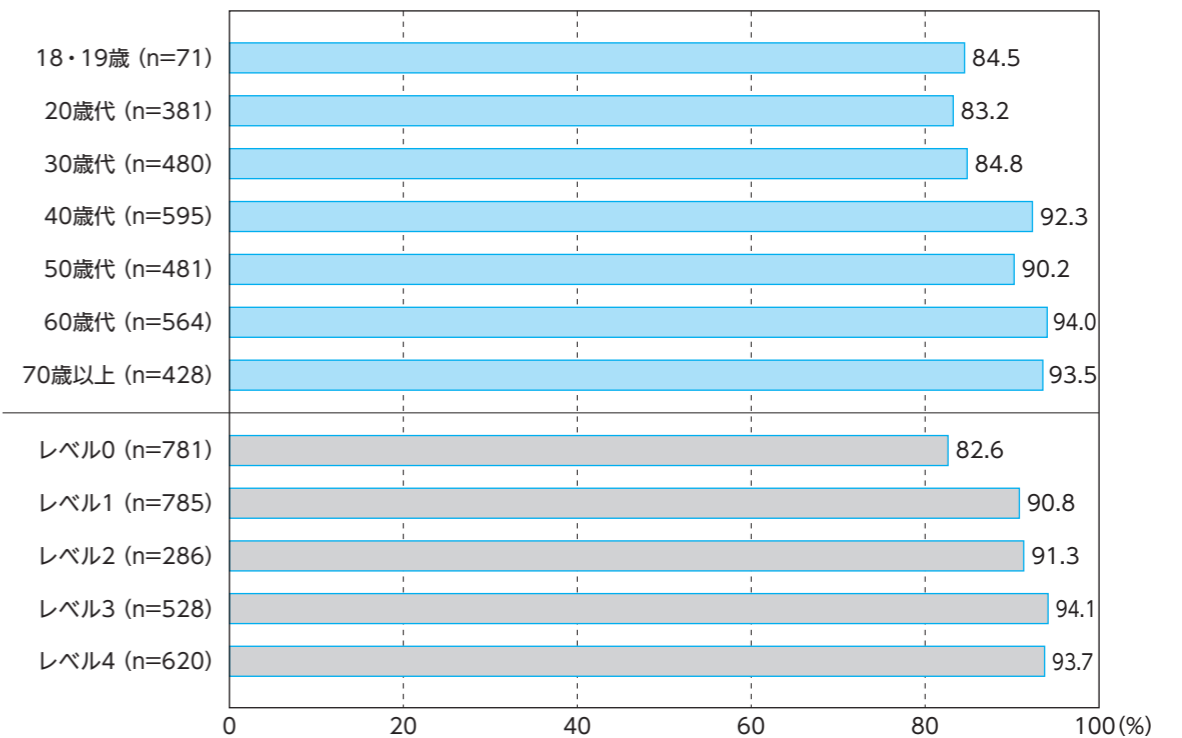
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル3」が94.1%と最も高い。次いで「レベル4」93.7%、「レベル2」91.3%、「レベル1」90.8%であり、過去1年間に運動・スポーツを行った者のテレビ観戦率は9割台であった。一方で、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」のテレビ観戦率は82.6%であり、他のレベルと比べて低かった。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

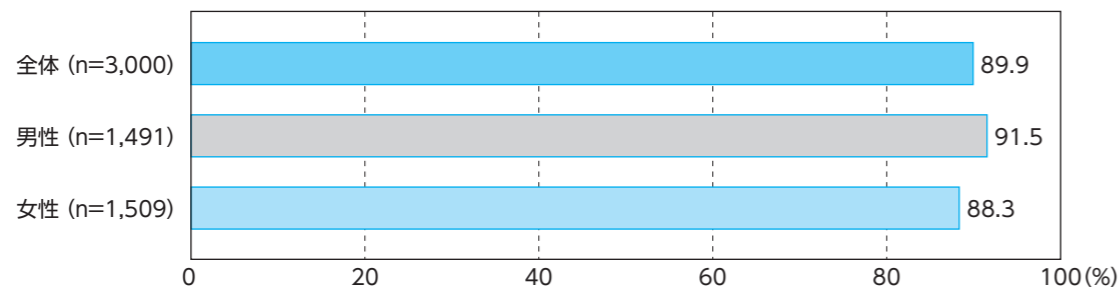
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図4-6】テレビによるスポーツ観戦率(年代別・レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

### COMMENTS

- 自分はプレーできなくても観戦することにより、同じように楽しむことができる。スポーツの素晴らしい点だと思います。(76歳 女性 専業主婦・主夫)
- 観戦も1人じゃなくて人と楽しく共感し合いながらみたいです。(50歳 女性 パートタイム・アルバイト)
- スポーツ観戦には喜怒哀楽があり、声を出すのでストレス発散にとっても良いと思う。(54歳 男性 事務的職業)
- もっと障がい者スポーツをとりあげるべき。車いすバスケットボールを観戦したが、迫力があっておもしろかったです。(44歳 女性 専業主婦・主夫)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

グ)6.8%、「海外プロサッカー(欧州、南米など)」6.6%、「プロテニス」6.6%が直接観戦希望率では上位に入った。

今後の直接スポーツ観戦希望率が高い上位10種目を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出した。直接観戦希望率が最も高い「プロ野球(NPB)」は、継続観戦希望(リピーター)率10.2%、新規観戦希望率16.1%と、どちらの割合も他の観戦種目と比べて高い。直接観戦希望率2位の「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」「フィギュアスケート」は、継続観戦希望(リピーター)率が0.5%および0.4%に対して新規観戦希望率が15.5%および15.6%であり、新規観戦希望者の割合が高い。

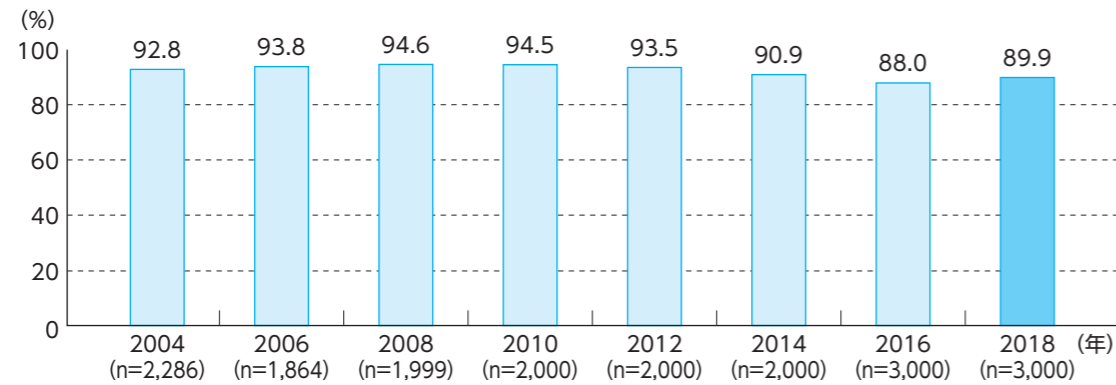
### 4-3 テレビによるスポーツ観戦率

過去1年間のテレビによるスポーツ観戦状況の推移を図4-4に示した。2018年のテレビスポーツ観戦率は、全体の89.9%であった。テレビスポーツ観戦率は、最も高かった2008年から減少が続き、2016年は調査項目に追加して以降最も低い88.0%であったが、2018年は1.9ポイント増加した。今回の結果から、過去1年間のわが国におけるテレビスポーツ観戦人口は、9,535万人と推計された。

図4-5は、テレビスポーツ観戦率を性別に示している。男性は91.5%、女性は88.3%であり、男性が女性を3.2ポイント上回る。

図4-6に、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のテレビスポーツ観戦率を示した。年代別にみると、18・19歳84.5%、20歳代83.2%、30歳代84.8%と、30歳代までのテレビ観戦率は8割台である。40歳代以上では、40歳代92.3%、50歳代90.2%、60歳代94.0%、70歳以上93.5%と9割台であった。テレビ観戦率は年代によって差があり、特に30歳代以下のテレビ観戦率が低い。

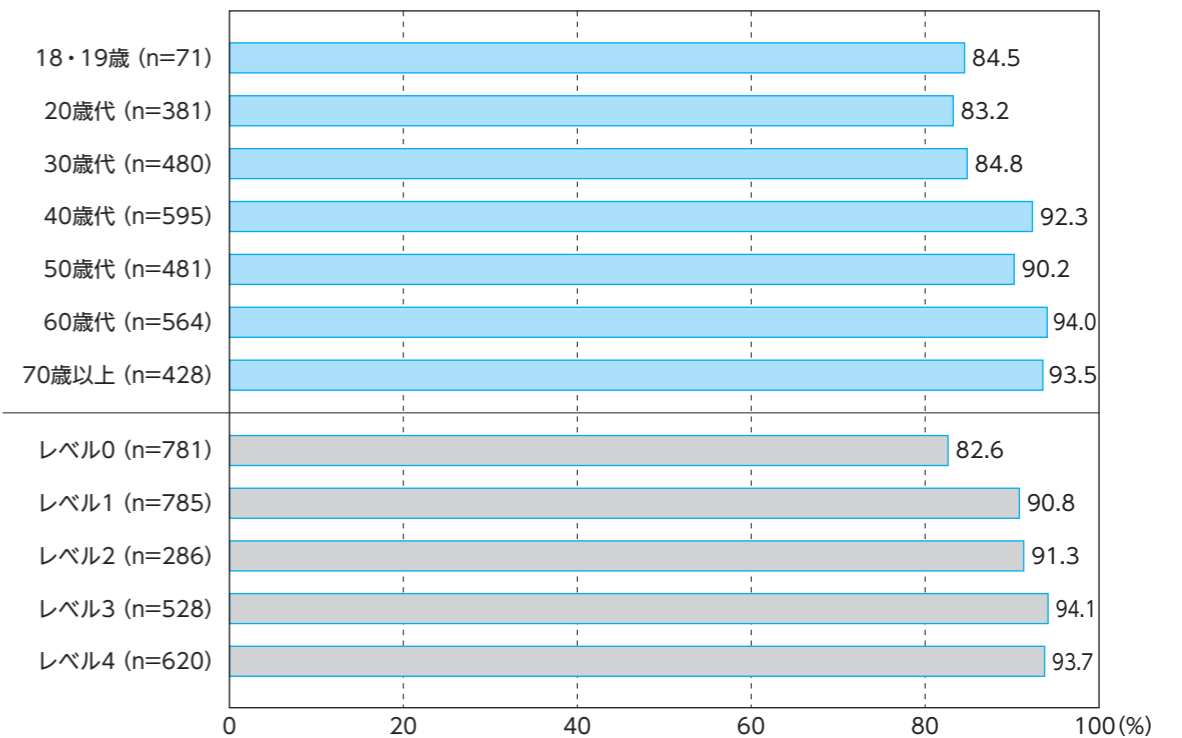
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル3」が94.1%と最も高い。次いで「レベル4」93.7%、「レベル2」91.3%、「レベル1」90.8%であり、過去1年間に運動・スポーツを行った者のテレビ観戦率は9割台であった。一方で、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」のテレビ観戦率は82.6%であり、他のレベルと比べて低かった。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

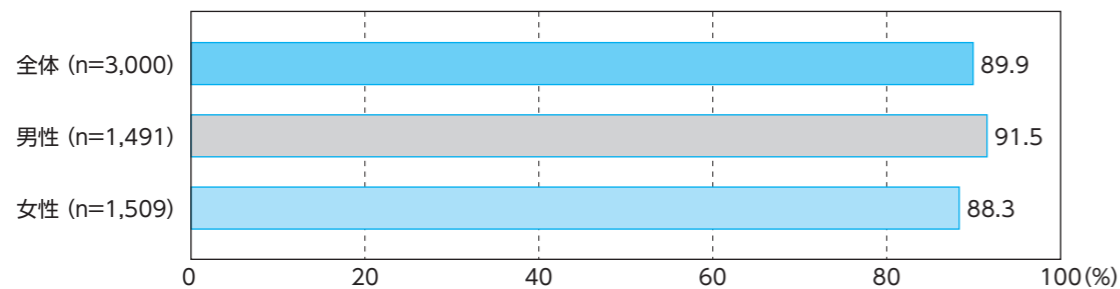
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図4-6】テレビによるスポーツ観戦率(年代別・レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

### COMMENTS

- 自分はプレーできなくても観戦することにより、同じように楽しむことができる。スポーツの素晴らしい点だと思います。(76歳 女性 専業主婦・主夫)
- 観戦も1人じゃなくて人と楽しく共感し合いながらみたいと思います。(50歳 女性 パートタイム・アルバイト)
- スポーツ観戦には喜怒哀楽があり、声を出すのでストレス発散にとっても良いと思う。(54歳 男性 事務的職業)
- もっと障がい者スポーツをとりあげるべき。車いすバスケットボールを観戦したが、迫力があっておもしろかったです。(44歳 女性 専業主婦・主夫)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018